

Q1 講演「災害時の受援力とボランティアの連携力」について

プラス意見

- 災害が起こるととても大変。ボランティアの方が来てくれると助かると思う。
いつも避難所の様子をみて、トイレはどうしているのか心配でした。
- 体験に基づいた意見と具体的での話だった。
ボランティアについての考え方も大変参考になった。
災害時の取り組みについて、個人・自治会・行政について参考になりました。
- 災害時の 扱い等支援のやり方。ボランティアの心構え
- 「備えあれば憂いなし」まさにこのひと言につきることだと思います。
平和ボケしている自分に尻を叩かれた思いです。
災害、減災、防災の意識を高めて日頃からの思い方、考え方を行動に現して行きたい
- い
- いざ緊急事態のときどう対応すべきか。困りごとをチェックしたら良いか解決すべきを考える。
- 日頃防災には無頓着でしたので今日の話参考に少しずつ準備したいと思います。
備えに「後で」は通用しない。
- 豊富な経験に基づく、ポイントを押さえた話は大変参考になりました。今後の市のボランティアに関する計画にも反映してもらいたいと思いました。
- 災害時の心構え
- 普段からの横のつながりの大切さを教えられました。
- まさか・・・という思いを捨てること。ボランティアコーディネーターのこと。
- 何が困ることかをよく考えること。
日頃からのつながりづくり。
物資はプロに任せましょう。
- 今までは漠然と思っていた災害時の事が具体的な事として思える事ができた。
- 大変ためになりました。
- 避難時家の自家用車等の鍵の処置について。
鍵をかけると救いに家に入れない？路上に置いた車が救助の妨げにならないか。
- あまり準備をしていませんでしたが、準備をしないといけないと思いました。
- 災害時のボランティアの心がけ。普段から情報を得ていろんな繋がりを持つことが大切。ボランティアの人達を受け入れる体制も大切。訓練をしておく。
- 防災時の備蓄の準備について考えさせられた。
土砂災害や津波についてのハザードマップを利用すること。
地震について、身の安全、衣住食、情報収集の考え方、トイレの問題があることがわかった。
ボランティアについて考えさせられた。被災者と協力しながら行ってゆくことが大事だと感じた。
- 身近の話でよかった
- 災害ボランティアでの連携のあり方について良く判った。

Q1 講演「災害時の受援力とボランティアの連携力」について

- 体験しないと具体的な問題点対策が理解できないことがわかった。
この地域でも災害ボランティアセンターと災害ボランティアの活動を想定し事前訓練をしては？
- 自分が困ることから話し合い、知恵を出し合う、1から出発することの大切さ身に染みました。
- ライフラインが止まった時を想定してのこまり事が何であるのか各個人の意見を出し合う事が大切である事。
特に女性に対するトイレ問題は声を大にしていきたいと思う。
- 被災地のボランティア要請事情等、学ぶことが多くありました。
- 災害時には自分が被害者にならないよう今回の公演を基にボランティアとして働きかけたい。
- 自分にできること、連携の大切さを参考にしたいと思います。
- 災害の事前準備の大切
- 被災者となるのは明日は我が身である。備えは個人的にも増して地域ぐるみが必要である。
- 個々の気持ちの持ち方
- 地域の結びつきを日頃から心掛けていくよう努力したい。
- ボランティアセンターにおける受援力を養う必要。
地域活動を一步進めるために考えどころ。Q&A災害は地域で何に困っている何を
するのが良いか。困るのか、何をしたらよいのか
- 地域、行政などと連携の重要性。災害に対する認識を改めていこうと感じた。
本日の講義を受けて、つながりの重要性を強く感じた。
- 何が重要で、何がそれほど重要でないかは1人1人違うこと。自分の重要度の順位
を備えとして認識することがとても大切で課題。
地域の1人1人の重要度の実状態を知ることが、自分の町の重要課題と思いました。
見積り・翻訳者の育成が最優先課題だと感じました。
- 災害に対する日頃の心構え、準備が重要である。準備が十分であればボランティア
として協力できる。そのためにも、知識だけでは不十分である。実行できる準備が大
切である。
- 被災時に何が困るのかを考えることから災害の学習が必要であると気が付けた。
- 常々テレビ、ラジオ、新聞で見聞きして頭に入れているつもりでいましたが松山先生
のお話は机上丈でなく、足が地についているものなので納得できました。

Q1 講演「災害時の受援力とボランティアの連携力」について

マイナス意見

- 被災地に物資が余っているので、絶対に「物」を送らない！
- 救援物資は個人では送らないようにする。現地は支援物資の山になる。
支援物資を送りたいのは人情である。要注意。
- 参考になったが、いざその時が来た時の何をどうやればよいのか判らない。
- お話が聞き取りにくかった。自分の耳のせいかマイクロフォンのせいか音響施設のせいか。他のマイクだと聞き易かった。
- 質問に時間を取るべき。休憩時間は短くても講師に聞けるチャンスはないのだから。司会の閉めは先ず講師を解放し休憩時間を告げるべき。講師に非常に失礼だった。